



STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION

11.344 JULY 22 - 自分は、4交番の内の3交番目でSPS クリロバイト号からSPS フェインステイン号に転属することになった。副長であった第一階級海軍少尉リムと別れるのはとても残念だ。リムは、本当の意味でのいい友人であった。困った時には気軽に相談に行けたし、尊敬もしていた。ときどき夜がふけるまでいろいろ話し合った。リムはよく田舎のアミーダのアイブのことを聞かせてくれたし、自分は、生まれ育ったザリウムの話をした。ザリウムは宇宙の杜の故郷とはいえないにしても、妙に故郷が恋しくなることがある土のた。今度の司令官も話せる人でありますように... リムの半分でもいいから。

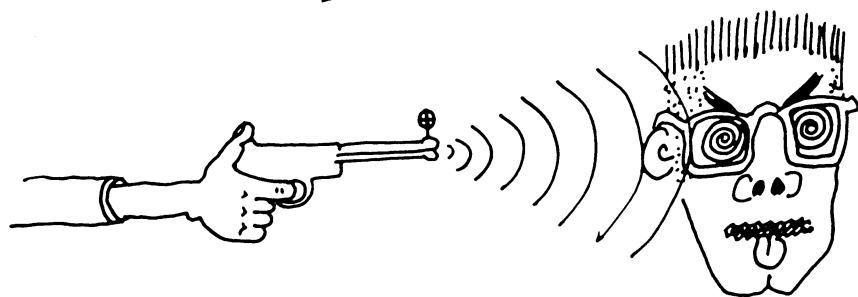
今度の船は、スバラシイ。仕官室には5人の少尉しか詰めていないし、ロッカーも1.5立方メートルほど確保できた!

11.344 JULY 23 - 今度の副長、第一階級海軍少尉ブザンに会った。奴は本物の大タコだ! (宇宙通信禁止用語をお許しください、ママ) しかしたら第一印象が悪すぎただけかもしれないが...

11.344 JULY 25 - 仕官室の同僚、グルンドが第七階級少尉全員でのザイルファニク-タントを提案した。昼食後(150-ミニクワン-ルク-シオン時間帯)に最速早速ト-タントを乗しんでいたが、突如として

乱入してきたブラザーに中止させられてしまった。戦争ゲームはハトロール隊規則に敵れるため、ゴ法度というわけらしい。だが ウィソップ少尉 (ハトロール隊気付けの弁護士に存るために勉強している) に言わせると、規則のどっこを取ってもそんなことは書いていないということだった。

ブラザーは本物の大タコだ!!!!



11.344 JULY 28- 人事担当官のとこへ出頭し、フェイスティングでの任務について聞きにいった。そこで見せてもらった任務リストの中から、グロ-4飼育当番を選んだ。グロ-4が滞在在中に2、3頭積み込んだグロ-4をトリメインの動物園の実験室に運ぶ込み、どうしてたった一日で体重が47倍にも増えるのかについて研究すると聞いている。

11.344 BOZBAR 7- 人事担当官からコック長までの全員が、自分のグロ-4飼育当番の申請を承認してくれた。それなのにブラザーのタコだけが反対しゃがった。明日その件で奴と面談することにした。うまくいきますように…。



STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION

11.344 BOZBAR 8- タコ!! フラザーが却下しゃがった! それどころか、「そんなにグロ-チが好きならグロ-チ檻の掃除係にまわしてやる」ときたもんだ。まったくなんだった! バカ、アホ、大タコ!

11.344 BOZBAR 26- フラザーがテラン島のように四六時中、監視しているので、二のこの三 まったく日記をつける余裕がない。先週の抜き打ち検閲で日記が見つかってしまい、200点も減点されてしまった。フラザーのタコ野郎は「日記は規則違反だ」とぬかしやがった。このまま日記をやめると気が滅入ってしまうぞうだ。そこで公文書のファイルの中に日記を閉じ込んだ上でエアダクトの中に隠すことにした。これからはどっかにこっそり隠れて日記をつけることにしよう。

11.344 BOZBAR 27- ママ こんにちは、今は、SPD 石ハインスタン号4番デッキの補給品戸棚の中。こんなふうに日記を持ち歩くことで、ツキに見放されることを願っているわけじゃないよ。僕もみんなのように自分の運命なんてまったく信じていなかったけど、それはもう過去のこと。昔、コンピューターが「パパの怪我の確率 43%」と示してきた時、ママは「暗くなったら星の表面を歩き回らないで。」とパパに忠告したよね。でもパパは、いつものように強情で、忠告を笑い飛ばして、夜の散歩に

出て来たんだ。そして次の年の夏、夜散歩に出かけたパパは、
クレーンに足をひかれて膝をケガをしてしまったんだ。少しは運命
てものを信じるようになったのはそれからさ。" やれやれだぜ！

11.344 BOZBAR 28- 今日惑星軌道に入った。こゝはアカルディ-3
(現地人はブロウク・ビビン・ゴードと呼んでいるらしい)という非人間世界だ。
こゝはまだ銀河連合には正式に加盟していない。連合参加を勧める
ために、トレメインに連れていく特命大使を乗船させるというおぼろの
噂だ。明日は、歓迎式典があるため儀礼服着用令が出ている。

11.344 AUGUST 2- 昨日の歓迎式典の際、ブロウク・ビビン・
ゴードの大使をちらと見た。木の幹と融け出したソフトクリームのコーンの
合いの子みたいな格好をしていた。今日は、大使の歓迎セレモニーの
おかげでグロ-4艦の掃除をしないぞんだ。

11.344 AUGUST 7- ゆうべは鑑賞を義務づけられている。
パトリック隊インフォメーション、トライビジョンの
3本立て、「宇宙ライシ侵略に対処処理」、
「上陸許可シエリ: 異星人病予防法」、そして
「空気タンク: 真空状態での最良の友」を
見に行った。2本目の上映中にやじを
とばしたかどで、半分の少尉が士官室で





STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION

禁足になった(残りの半分は、という、1本目の途中ですでに寝て
いたってワケさ)。

11.344 AUGUST 24- バカまるだしの大ダコ!!

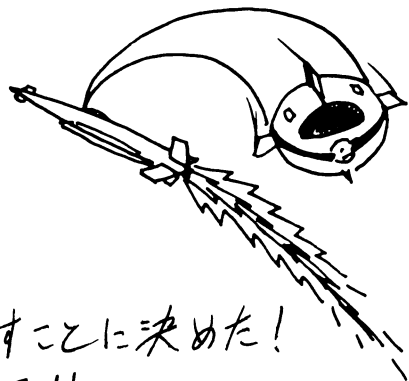
自分は次の4半期に宇宙物理学の訓練を申し込んだ。ところがブラザーが
「特命任務作戦部隊での仕事ぶりがまだまだ不十分だ」と言い、
申請を却下したばかりでなく、精神矯正と称して、ふき掃除当番を
命じてきやがった。

タコブラザーが!!

さすがに自分は、パトロール隊員としてこの先うまくやっていけるかどうか、
初めて不安になってきた。カリウムで育った頃から、その年齢に
達すれば、パトロール隊に入隊することを当然のことだと思っていた。
家は、5世代も続くパトロール隊員一家だ。曾々おじいちゃんに至っては、
海軍大尉でパトロール隊生みの親でもあった! けど、どうやら
曾々孫は、第七階級の少尉で一生を終わろうだ…、
ブラザーは意地悪のし放題だ。

11,344 SEPTEMBER 4 - 当初の予定ではあと2週間停泊しているはずだったが、本日7,600にハイパースペースに向かって出発した。裏情報によると、現地の恒星システムを調査する特命を受けたらしい。ある考古学者によると、第二連合の生き残りかもしれないとのことである。大銀河の隅っこで定住しているなんて、どんな人たちだろう。

11,344 SEPTEMBER 5 - またあの夕ユガ!
昨日グロ-4の檻を掃除していた時に、
人ロットのはいったパレットを2つ見逃ごして
しまった。そうしたらブラザーが減点
100を宣告し、本船の中で最も汚い
9番デッキを含む、臨時デッキ清掃2回を
課してきやがった。自分は転属願いを出すことに決めた!
それでもダメならこの船から逃亡してやる!!





STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION



STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC PERIOD

—
—